

ID No.	1005
研究課題名	ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究
研究代表者	海堀 昌樹 (関西医科大学・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 中竹 利知 (関西医科大学・助教) 中村 有佑 (関西医科大学・病院助教) 奥村 忠芳 (関西医科大学・非常勤講師) 松島 英之 (関西医科大学・大学院生)
研究報告 <u>平成 29 年度：T-01 とソラフェニブの併用療法による直接的な抗腫瘍効果の検討</u> ① <i>in vitro</i> ：ヒト肝細胞癌細胞株 HuH-7,PLC/PRF/5 に対して、T-01 単独の細胞障害性を検討したが MOI:0.01 において効果不足であったため、sorafenib 併用による抗腫瘍効果を検討した。細胞障害性試験を T-01(MOI:0.01)+sorafenib (4-8 μ M)において行い、相乗効果を確認した。また抗腫瘍効果におけるメカニズムの確認のため、MAP キナーゼのリン酸化について western 法を用いて確認した。T-01 単独では MAP キナーゼのリン酸化の阻害効果が生じないが、sorafenib 単独では阻害効果が生じた。そして T-01+sorafenib では sorafenib 単独の阻害効果を減衰することはなかった。 ② <i>in vivo</i> ：ヌードマウス皮下モデル(HuH-7)における sorafenib 併用による抗腫瘍効果を検討した。T-01 単独投与において 2×10^5 pfu では腫瘍体積が半分程度となり腫瘍縮小効果を認めた。sorafenib 単独では 10mg/kg/day の投与で同様程度の効果であった。そのため T-01: 2×10^5 ならびに sorafenib : 10mg/kg/day の併用を行い、相乗効果を確認した。今後、病理学的検査など詳細な実験を行い、肝細胞癌への実用化を視野に入れた開発を目指す。	